

## 1. 授業の概要(ねらい)

オセアニア地域の文化や社会について取り上げます。そもそも、日本では他地域に比べオセアニアの学習機会に恵まれているとは言い難い状況です。しかし、他方で、オーストラリアやニュージーランドはもちろんのこと、ハワイやグアム、タヒチやニューカレドニアなど、この地域は日本人観光客にとって人気の渡航先の一つです。手始めに、そんなオセアニアの歴史や一般事情を理解したうえで、オーストラリアを取り扱います。同国の特徴的な風土や文化を学び、社会問題についても理解を深め、日本やアジアとの関係についても考えていきます。また、対面で実施する場合は受講者数等の条件が合えばグループワークなども導入し、オンライン授業の場合でも、可能であれば参加体験型のアクティブラーニングなども導入する予定です。

## 2. 授業の到達目標

- ①オセアニア地域全体の歴史や現在の概略を説明できる
- ②オーストラリアの文化と社会の概要を説明できる
- ③オーストラリアにおける文化と社会的課題について指摘できる

## 3. 成績評価の方法および基準

授業に対するリアクションペーパー(60%)、期末試験(40%)の割合で評価し、その基準は以下の通りです。ただし、オンラインでの授業になった場合は、原則として試験に代わり期末レポートを提出してもらおう予定です。その場合、リアクションペーパーと期末レポートの割合を変更する可能性があります。変更する場合はその理由も含めてその都度説明します。

- S(90点以上) = 上記の到達目標のすべてをすぐれた水準で達成。  
A(80点以上) = 上記の到達目標のすべてを一定の水準で達成し、2つをすぐれた水準で達成。  
B(70点以上) = 上記の到達目標のすべてを一定の水準で達成し、1つをすぐれた水準で達成。  
C(60点以上) = 上記の到達目標のすべてを一定の水準で達成している。  
F(59点以下) = 上記の到達目標の一つ以上を一定の水準で達成できていない。

## 4. 教科書・参考文献

### 教科書

なし(プリント配布)

### 参考文献

主なものは以下参照、その他適宜紹介します。  
越智道雄(著) オーストラリアを知るための58章 明石書店 2011  
竹田いさみ(他著) オーストラリア入門 東京大学出版会 2007  
藤川隆男(編) オーストラリアの歴史-多文化社会の歴史の可能性を探る 有斐閣 2004  
山本真鳥(編) オセアニア史 山川出版社 2008

## 5. 準備学修の内容

配布プリントを参考に、次回の授業で取り扱う専門用語等を事前に調べておくこと。とくに対面の場合は、授業のはじめに、前回の授業内容に関する質問に答えてもらう予定なので、十分に復習を行うこと。また、オンラインの場合も、事前に動画視聴等の指示をしますので、十分備えること。

## 6. その他履修上の注意事項

第1回目のガイダンスはオンライン授業でガイダンスを行います。授業のすすめ方や成績評価の方法など重要事項を説明します。ガイダンスを受けずに、2週目以降から受講することは認められませんので注意して下さい。

内容としては歴史、地理、文化など、オセアニアの一般事情を理解することに加え、地域の直面する社会問題を論理的に分析してみたい人に適しています。そのためにも、受講生の人数やニーズに応じて可能であれば、ワークショップなど課題解決型のアクティブラーニングも導入していく予定です。

なお、各回の授業内容はあくまでも目安です。受講生の理解度や関心も加味し、適宜修正していきます。

## 7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス-受講の心得、講義内容の説明、オセアニア研究の意義と目的
- 【第2回】 オセアニア地域の全体的概要
- 【第3回】 先住民アボリジニの歴史と伝統文化
- 【第4回】 「オーストラレイジア」の歴史
- 【第5回】 オーストラリア連邦形成と白豪主義
- 【第6回】 二つの世界大戦とオーストラリア
- 【第7回】 ヨーロッパ的国家からアジア太平洋的思考への変貌
- 【第8回】 多文化社会への挑戦
- 【第9回】 現代オーストラリアの政治動向
- 【第10回】 現代オーストラリアの経済事情
- 【第11回】 現代オーストラリアの大衆文化
- 【第12回】 現代オーストラリアのスポーツカルチャー
- 【第13回】 現代オーストラリアの観光事情
- 【第14回】 世界とオーストラリア、豪日関係
- 【第15回】 まとめ-21世紀におけるオーストラリアの展望、定期試験へむけて